

令和5年度第1回有明アリーナ管理運営事業モニタリング委員会 議事要旨

- 1 **開催日時** 令和5年6月23日（金曜日）10時から12時まで
- 2 **開催場所** 東京都庁第一本庁舎15階 15F会議室
- 3 **出席委員** 笹井裕子委員、澤井和彦委員、鈴木智子委員、千葉恵介委員、山口直也委員（5名全員出席）

4 会議内容の概要

※有明アリーナ管理運営事業モニタリング委員会設置要綱第7の規定に基づき、一部を非公開

(1) 開会挨拶・趣旨説明

事務局より、今年度のモニタリング対象となる令和4年度の有明アリーナ管理運営事業について、運営権者である株式会社東京有明アリーナの業務状況を把握し、適正な運営につなげていくために、ご意見を頂きたい旨を説明

(2) 委員紹介（委員長互選）

山口委員を委員長に選出

(3) 議事

ア 報告事項

事務局より、令和4年度有明アリーナ管理運営事業の状況、令和4年度有明アリーナ管理運営事業の評価案、運営権者への事前質問案について説明

イ 審議事項

(ア) 令和4年度有明アリーナ管理運営事業の評価について

(鈴木委員)

資料5で評価が達成済みとなっている項目について、現時点で評価を決定してよいのか。本日の資料には監査役会の資料も含まれていない。

(事務局)

監査役会の資料については、6月末に共有予定。今回の評価はさしあたり「仮置き」であり、第2回モニタリング委員会でそれらの資料を踏まえて、再度審議をお願いする。

(笹井委員)

広報業務の達成基準が曖昧だという印象を受ける。何か明確な目標などはあるのか。

(事務局)

要求水準書には明確な基準はない。

(笹井委員)

このような施設の認知度は、稼働率を高め様々なイベントに人々が訪れることや、マスコミでそれらのイベントが取り上げられる中で、結果として認知度が高まるというのが一般的。その点について、運営権者はどのように考えているのか。

(事務局)

運営権者は、施設そのものの知名度を高める一般向けの広報でなく、施設の稼働率向上に向けた広報を行っている印象。一般向けの認知度という意味では、レストランやジムなどの広報で存在感を示すという方向性はあり得る。

(笹井委員)

広報業務について、主催者向けの営業活動である誘致業務とは区別しつつ、東京2020大会のレガシー施設として、有明アリーナのスポーツというイメージをどう発信していくかの中身の検討も必要。

(山口委員長)

施設のオープニングに関連する広報に特化した内容となっている。これから恒常的に運営していく中で、施設そのものの認知度を上げるところとイベントそのものの広報どちらに重点を置くのかなど、広報の評価の在り方を今後整理すべき。

(事務局)

来年度のモニタリングでは、そのような点を追っていく。

(澤井委員)

要求水準書の中に、オリパラレガシーとしてのブランディングは入っているのか。

(事務局)

有明アリーナをオリパラレガシーとして広報するという記載にはなっていない。

ただし、そのような運営を求めている。

(澤井委員)

営業活動を通じて施設を使用してもらい、多くの来館者を招き、それを通じて有明アリーナを認知してもらうことが施設自体の広報に繋がる。施設のブランディングという点では、東京2020大会の実施種目を誘致することが有意義。

(イ) 運営権者への質疑応答に向けた事前質問について

(山口委員長)

第2回モニタリング委員会の運営権者との質疑応答において、事前に運営権者から各質問への回答を頂くことで、質疑応答の深度を高めたいと思う。事前に確認したい質問があれば、この場で発言をいただきたい。

(笹井委員・千葉委員)

ジムの利用者が伸び悩んでいるように思われるが、増加に向けた今後の具体的な取組について確認したい。

(山口委員長)

暑さによる熱中症対策など運営権者のリスク管理について確認したい。また、サブアリーナの都民開放DAYは、広報活動としても有効なので、内容の詳細を確認したい。追加の事前質問がある場合は、事務局に送付してほしい。

(4) 連絡事項

事務局より、第2回モニタリング委員会の予定について説明

以上